

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

大塚義治理事長による 特別講義開催

平成二十年十二月十日、日本赤十字学園大塚義治理事長による「これからの社会、医療、そして看護」皆さんに期待するもの」と題した特別講義が行われました。本講義には、学生（三・四年生）および教職員が参加しました。

講義では、大塚理事長ご自身の心に残った「赤十字の一員となつて感じたこと」という視点から、「二〇〇五年日本国際博覧会（愛・地球博）における国際赤十字・赤新月パビリオン」のエピソード、海外緊急支援から帰国した医師や看

護師とのかわり、赤十字本社内で倒れた職員を看護師の職員が救助した場面などを通じて、赤十字の仕事に携わり多くの感動があったことが語られました。また、講義の中では、「愛地球博・日本赤十字パビリオン」で実際に使われた映



像と音楽を放映し、赤十字の使命や人道について改めて考える必要性を説明されました。

次に、「赤十字とは何か」という視点からは、孟子の『惻隱の情（心）』という語を用いられ、「他人の苦しみを見過すことができない心」が赤十字の原点であると語られました。最後に、「大学で学ぶということとは、論理的思考ができることであり、自分で考える力を身につけること。」とのメッセージを頂きました。

第10回 看護開発センター 市民講座の開催

看護開発センター
副センター長 佐久間まこと

平成二十年十一月二十九日、本学講堂を会場に第二回看護開発センター市民講座が開催されました。今回のテーマは「災害に強い地域づくりを目指して」と題し、本学尾山とし子准教授とNPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク黒田裕子理事長の講演が行われ



ました。尾山准教授の講演では「いのちを守るために必要な災害の知識」というタイトルで、災害時にはどのようなことが起こるか、災害に対する事前の対策や準備、ネットワーキングづくりの重要性などについて判りやすく述べられました。黒田先生は「あなたのいのちはあなたの手で守りましょう」と題し、防災や減災の主人公は市民であること、地域の中で先を見越した防災ルールづくり、個人や家族そして地域、行政の支え合い、「自助、共助、公助」の確立など、防災から私たちの地域を守るための様々な提案があり、参加者からは大変興味深く、有意義な講演であったとの感想をいただきました。開発センターではこれからも地域の皆さんに向け、様々なテーマの市民講座を企画する予定です。

平成二十年度 看護研究演習ポスター発表会

昨年の十二月四日（木）、看護実習室を会場に、四年生による看護研究演習ポスター発表会が華やかに開催されました。
今年度の看護研究演習発表者百十三名。大半がスーツ姿に身を包み、緊張した面持ちで約一年に渡る研究の成果を発表しました。会場には指導教員のほか一年生から三年生までの学生も大勢参加しました。



看護研究演習は三年生後期から受講する二単位の必修科目、他大でのいわゆる卒論に相当します。本学には十五の研究領域があり、教員一人あたり平均五人の学生を担当しています。今年度の看護研究演習発表者は百十三名。研究課題数は個人研究五十七件、グループ研究二十二件の計七十九件でした。発表会は午後一時から午後五時までポスター発表形式で実施されました。一件の発表時間は五分、質疑応答時間が二分です。今年度は例年以上に学生同士の質問が多かったようです。

会場は基礎・成人看護実習室、地域・老年看護実習室、母性・小児看護実習室の三会場で同時に行われました。



会場で、参加した学生の声を聞いてみました。四年生「三年後期からの科目でしたがデータ収集を

始めたのは四年の領域別看護実習を終えてからです。国家試験の勉強もあり大変でした。後輩には、三年生の内にデータを取り終えた方がよいとアドバイスしたい。三年生「すごいなあ、スーツ姿も格好良くて本物の研究者みたいと思いました。私にもできるかなあ。ちよつと自信ないなあ。二年生「おもしろい研究がありました。まだ先の話ですけど、あんな研究がやりたいです」。一年生「一年間で仕上げるのは大変だろうなと思いましたが、できれば二年生くらいから始められないですかねえ」など多種多様。皆さんの今後の取り組みに期待します。

四年生の皆さん、立派な発表会、ご苦労様でした。

学生相談室の 開室時間が延長します

学生相談室の開室日は、従来は毎月2回（金）でしたが、本年1月より下記のとおり開室日を増やし、開室時間も延長することになりました。お気軽にご利用下さい。

従来の開室日 毎月2回 金曜日 11:30～13:00

1月からの開室スケジュール

	月	火	水	木	金
第1週	-	-	-	-	11:30～ 13:00 (但し 月2回 のみ)
第2週	-	-	12:00～ 18:00	-	
第3週	-	-	-	-	
第4週	-	-	12:00～ 18:00	-	



講師は、産科・生殖医学分野で活躍されている北海道大学大学院医学研究科の水上尚典教授であり、日本の周産期医療の現状、および今後の助産師に期待される役割について、講演されました。

水上教授は、国内の産婦人科医師が過去八年間減少し続けており、近年では、男性よりも女性の産科医師が増加していること、産科医師は拘束時間が長いことや、訴訟を起こされる率が高いなどの背景

助産学専攻開設記念講演会 「北海道の安全で快適な出産を支援するために」医療者の現状と課題

平成二十年十二月十三日(土) 十五時から、本学講堂において、平成二十一年の本学助産学専攻開設を祝した記念講演会が開催され、北見市近郊の医師、助産師、保健師、学生の百二十七名が参加しました。

から分娩にかかわらなくなる医師が増えているため分娩に立ち合う医師の負担が重くなっている現状

を話されました。

また、日本の周産期医療が世界的にも優れていることによる、「お産は安全」という社会の認識が逆に医師の立場を苦しめている側面もあると述べられ、そのため、「これからの時代は助産師の養成を進めるとともに、医師と助産師が協力し合い、ガイドラインなどのルールを確立して、お互いに責任をもつてお産にかかわることが大切である」としめくられました。

昨年秋の芸術展覧会が開催されました。恒例行事となった芸術展は十一月十日から十四日までの一週間、集会室と学生ホールにて行われました。展示作品は学生や先生方から寄せられた絵画や写真、工作などのほか、各行事に撮影し

秋の芸術展覧会

学生自治会執行部会計
二年生 小林 愛

た写真の展示も行いました。個性豊かなすばらしい作品が集まり、楽しい展覧会となりました。作品が集まるのか、展覧会は成功するかなど不安もありましたが、今年は去年よりも来展者が多く、とてもにぎわっている様子で大成功だったと思います。

来年度もまた開催する予定ですので、皆様ぜひ積極的にご参加ください。

大学院カリキュラム改正に伴う新設コースについて

本学では大学院カリキュラム改正を行い、平成21年度からは看護学専攻（修士課程）に新しく2つの分野を開設いたします。

【安全管理学】

平成21年度から大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）では、現代の社会や医療のニーズに対応し新しく「安全管理学」を開講します。「安全管理学」では、保健医療福祉施設において安全管理のリーダーシップを発揮し危機的管理ができる看護実践者を育成する安全管理学分野（論文コース）と適切な感染防止技術や感染管理が実践できる専門家を育成する感染管理学分野（CNSコース）のいずれかを選択できます。特に院内感染や新型コロナウイルスの発生など感染管理に関するニーズが高いにも関わらず感染管理のCNSは数少なく、2008年12月現在1名しか認定されていません。安全管理の看護実践者・研究者として、その役割を担う看護専門職を目指して下さることに期待しております。

安全管理学担当：休波 茂子 教授

【精神看護学】

新設される「精神看護学分野」では、現在、精神医療や精神看護の中で強調されている諸問題に焦点を当てて探求します。具体的に、災厄を受けた後のトラウマやPTSDの問題、現代社会とうつ病、ニートや閉じこもりの問題、格差社会と生き甲斐喪失、自殺の問題等々を見ていきます。また、日本社会で根深い精神障害者への差別や偏見の問題等も直視し、地域ケアのあり方も考えます。さらに、精神医療の不幸な歴史を踏まえて、人権侵害等の倫理問題にも眼を注ぎます。みなさん、この新しいコースと一緒に研究してみませんか。受験を期待しています。

精神看護学担当：澤田 愛子 教授

- 願書締切日：2月20日(金)
- 試験日：3月1日(日)
- お問い合わせ：日本赤十字北海道看護大学 学生課 入試係



第二回
保護者懇談会開催

秋にしては暑さを感じた昨年十月十九日の日曜日、第二回保護者懇談会が本学にて午後一時から開催されました。参加された保護者は一年生が十四組、二年生は三組、三年生が七組、四年生は十組の計三十四組六十三名でした。石井トク学長ならびに吉村利光後援会会長様のご挨拶にて開会し、大西章恵学部長より本学看護教育の概要が説明され、保護者の皆様は授業や演習のスライド写真を真剣に見つめていました。続いて施設見学や個別懇談にそれぞれ向かい、学

武田講師受賞



地域看護学領域
講師 武田富美子

地域看護学領域で在宅看護論・地域看護学演習などを担当している武田富美子講師が、昨年十一月に北海道大学学術交流会館で開催された第六十回北海道公衆衛生学会学術集会において北海道公衆衛生協会賞を授与されました。受賞した研究は、「北海道の市町村で働く保健師の情緒的消耗感に影響を与える要因」でした。

生食堂に設置した個別懇談のブースでは、学生の成績や学校生活、国家試験の仕組みや就職について学年担任の教員との熱心な話し合いが交わられました。
保護者懇談会は参加保護者の大多数から「満足した」とのご意見と「次回も開催してほしい」という要望を得て好評のうちに終了しました。



今回、このような名誉ある賞をいただき、部員一同本当に嬉しく思っております。平成十一年から今までの活動を表賞されたわけですが、年々活動の場も広が

三年生 石塚 詩乃
三年生 藤井みなみ

ポランティアサークル表賞される!

平成二十年度の北海道青少年顕賞に本学のポランティアサークルが選ばれました。
表賞状を受け取ったサークル代表に受賞の感想と今後の抱負を語っていただきました。

新任教員紹介



がん化学療法
認定看護師教育課程
准教授 本間 裕子

っており、これも先輩方や福祉協議会の方など、多くの方々の手助けがあったからだと思っております。また、ポランティアと言っても、誰かに何かをするというよりも、私たちが学ばせていただいていることの方が多いです。
今後も様々な活動に携わりポランティア活動を通して多くの方々とのふれあいや学びをしていきたいと思えます。そして、この活動が途絶えることなく続けていけるように努力していきたいと思えます。

皆さん、はじめまして。六月に開講予定のがん化学療法認定看護師教育課程担当の本間です。
現在、がんを患う人々は「がんと共に生きる」人生を送る時代になりました。外来治療が可能ながら、家族とともに自分らしく生きたいと願う患者さんとご家族の思いにかなった選択肢の一つです。初めて認定看護師教育に関わりますが、臨床の看護師さんたちが、さらに高度な知識を得て活躍できるように尽力したいと考えています。

奨学金貸与状況

平成20年12月1日現在

名 称	貸与金額	1年生	2年生	3年生	4年生
日本赤十字社北海道支部	年額 60万円	66	60	50	48
日本赤十字社看護師同方会	月額 2万円	3	1	2	1
北海道看護職員養成修学資金	月額 3.6万円	2	2		3
北見市大学生奨学資金	年額 60万円限度	32	22	16	16
北海道厚生連奨学金	月学 4万円				3
日本学生支援機構第1種奨学金	月額 5.3~6.4万円	11	13	11	16
日本学生支援機構さほう21プラン	月額 3~10万円	32	36	54	37
仙台赤十字病院奨学金	年額 60万円		1		
日本赤十字社福島県支部	月額 10万円	1	1		
日本赤十字社医療センター奨学金	年額 60万円				1
武蔵野赤十字病院奨学金	年額 60万円			1	2
さいたま赤十字病院奨学金	月額 5万円		1	1	1
横浜市立みなと赤十字病院奨学金	月額 5万円			1	
名古屋第一赤十字病院奨学金	月額 4万円			1	
静岡赤十字病院奨学金	月額 6万円			1	
和歌山医療センター奨学金	年額 60万円			1	2
日本赤十字社兵庫県支部奨学金	年額 60万円		3		
山田赤十字病院奨学金	年額 60万円				1

日本赤十字北海道看護大学内誌
Viva Kango
第24号

発行日/2009年1月28日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

編集後記

穏やかな新年の幕開けです。しかし国家試験に向けて、心なしか学内の空気は凜と引き締まってくるように思われます。新春にかけの想いも伝わってくるようです。ほどよい緊張感が、学生の皆様に栄冠をもたらしますことを信じています。この小誌が息抜きになれば幸いです。

